

1	MetaMoJi ClassRoom を使用した現場実習支援		
高等部3年	知的障がい	現場実習	自立支援・学習支援
活用した機器・アプリ等	iPad、MetaMoJi ClassRoom		
実践のねらい	実習中の生徒が日々の活動を記録し、振り返りを行うことで、職業意識や自己理解を深める。		

【授業の概要】

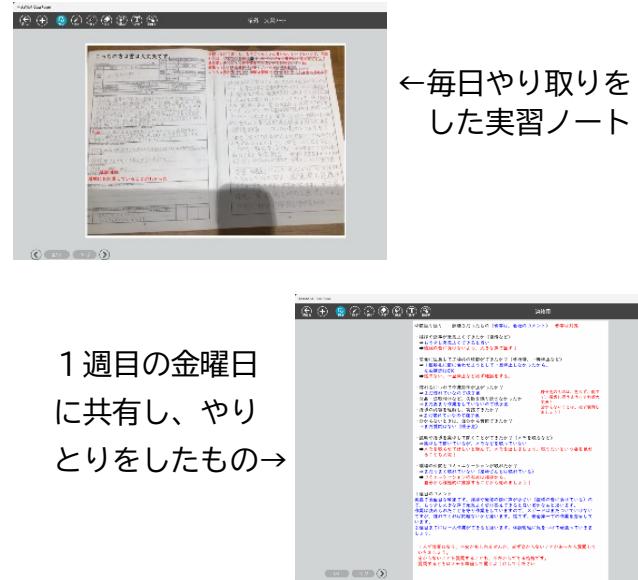
2週間の現場実習期間中において、生徒が安心して実習を継続できるよう、ICTツールを活用して教員とのつながりを保ち、実習内容の振り返りや不安の共有を可能にすることをねらいとした。また、遠隔での支援を通じて、生徒の自己表現力や課題解決力を育むとともに、教員が生徒の状況を把握し、適切なタイミングで支援を行う体制づくりを目指した。

【実践の様子】

実習期間中、生徒は毎日「実習ノート」を作成し、MetaMoJi ClassRoomを通じて「実習ノート」の写真を送信した。教員はそれに対して振り返りや改善点の助言を行ったほか、学校での何気ない会話のようなコメントも交えて、生徒が安心してやり取りできるよう配慮した。実習1週目の金曜日には、巡回時に企業の方から伺った内容をまとめた資料をMetaMoJi ClassRoom上に共有した。

また、生徒からは職場での人間関係や業務内容への不安、生活面での困りごとなどが寄せられたため、教員は迅速に対応し、必要に応じて保護者や企業とも連携を図った。

通信環境については、県外実習の生徒に対して事前に家庭と相談を行い、携帯電話のテザリングやポケットWi-Fiを使用したほか、企業の寮のWi-Fiについては事前に会社の許可を得て活用することで、安定したやり取りを可能にした。ICTの活用により、遠隔でも生徒の状況を把握し、適切な支援を行うことができた。



【実践の成果】

今回の取り組みにより、生徒は現場実習中、従来通り紙の実習ノートを記入し、MetaMoJi ClassRoomを活用してその記録を写真で送信した。これにより、教員とのやり取りが可能となり、振り返りの共有や自己理解の促進につながった。

また、ICTツールの活用により、遠隔でも生徒の状況を把握し、タイムリーな支援を行うことができた。通信環境の整備や保護者との連携を通じて、家庭・学校・企業が協力して生徒の実習を支える体制を構築することができた。これらの成果から、今後の現場実習においてもICTを活用した支援の有効性が確認できた。

2	Microsoft Teams を活用した生徒連絡		
高等部全学年	知的障がい	SHR	自立支援
活用した機器・アプリ等	iPad、Microsoft Teams		
実践のねらい	情報活用能力を育み、見通しをもって行動する。		

【授業の概要】

本校では、社会的自立を目指す教育の一環として、ICT 機器を活用した情報の受発信に取り組んでいる。Microsoft Teams（以下、Teams）を活用し、毎日の予定や連絡事項を生徒に共有することで、自ら情報を取りに行き、理解し、見通しをもって行動する力の育成を図っている。

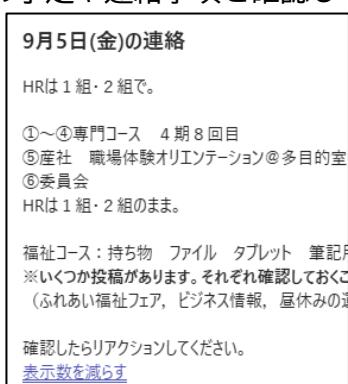
職員は、朝の学年職員打ち合わせの場で、当日の予定や注意事項などを Teams に入力し、生徒向けに発信する。また、時間帯に関係なく、行事後のアンケートや各種調査、こころのアンケートの案内と Microsoft Forms（以下、Forms）へのリンクなども随時投稿している。

生徒はこれらの情報を、朝のホームルーム（SHR）前や空き時間などに自分で確認し、日々の活動に活かしている。



【実践の様子】

朝の SHR 前に自分のタブレットを使って Teams を開き、当日の予定や連絡事項を確認している。情報を得た生徒が、周囲の仲間に声を掛けて情報を共有する姿も見られ、自然なコミュニケーションのきっかけにもなっている。



また、行事後のアンケートや調査なども Teams 上で案内されるため、生徒は自分のタイミングで内容を確認し、Forms を通じて回答するなど、ICT を活用した自立的な行動が定着しつつある。

【実践の成果】

この取り組みにより、生徒が自ら情報を確認し、行動に移す習慣が身に付きつつある。予定や連絡事項を事前に把握することで、見通しをもった行動が可能となり、朝の SHR に費やす時間が短縮された。

さらに、情報を共有する場面では、生徒同士が声を掛け合いながら確認し合う姿も見られ、協働的な関係づくりにもつながっている。

ICT を活用した情報管理の力が育まれるとともに、社会的自立に向けた実践的な力の育成にも寄与している。



3	外部スイッチとリズムゲームを使用した意思表出の支援		
高等部2年	病弱	自立活動	主体的な学び
活用した機器・アプリ等	外部スイッチ、iPadタッチャー、太鼓の達人アプリ		
実践のねらい	自らスイッチを押すことで主体的な行動を促す。		

【授業の概要】

当校では学校行事として、eスポーツ大会を行っている。練習として、タブレット端末にiPadタッチャー（指で画面をタッチすることが難しい人でも、スイッチを使ってiPadの操作ができるようにするための装置）を活用した。自分で外部スイッチを押すことで、音が止まったり、流れたりするなどの活動を通して主体的に取り組み、自分の意思を表現したりする経験を積み重ねられるようにした。

【実践の様子】

生徒の手元にスイッチを設置して、リズムに合わせてスイッチを押すことで「ドン」と「カッ」と太鼓の音が鳴る活動を行った。教師は、生徒の興味や反応を引き出すために、音のタイミングや外部スイッチの種類を工夫しながら支援を行った。また、個々の生徒の動きや表情に合わせて言葉かけを行うなど、即時的なフィードバックを意識した支援を行った。

さらに、スイッチの位置や押しやすさにも配慮し、操作しやすい環境を整えることで、生徒が主体的に活動に参加できるようにした。実態に合わせた支援をすることでどの生徒も音が鳴るたびに、笑ったり、声を出したりと活動を通して感じたことを表出することができた。



【実践の成果】

活動を通して、生徒の表情には、笑顔や驚きがみられた。音が鳴った瞬間に目を大きく開く、驚いたような表情になる、太鼓の音に合わせて笑顔になる、口元が緩むなど、驚きや喜びが表れていた。また、音に反応して声を出す、身体を揺らす、目線を向けるといった行動も増え、感覚的な刺激に対する反応の幅が広がっている様子がうかがえた。さらに、授業の始まりにイラストや太鼓の音等を示すことで活動への関心や参加意欲が高まっている姿もみられた。

これらの成果は、自己表現の促進や感情の表出、他者とのかかわりのきっかけとなるなど、情緒面・社会性の発達において重要な意味をもつものであると考えられる。